

## 2 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要

#### ○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、今後の天候が平年並みに推移すれば、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締まりは緩和すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、オーストラリア、米国、カナダ等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より53.4百万トン増加（8.8%）し、664.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.3百万トン上方修正されており、国別にはEU等が良好な天候等を反映して上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、米国、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より25.7百万トン増加（4.1%）し、647.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.3百万トン上方修正されており、国別には米国等が飼料用需要を中心に上方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、6.7百万トン増加（5.9%）し、120.5百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産量の増加が見込まれているEU、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年、輸出量が急増した米国で減少が見込まれている。一方、輸入国では、EU等で輸入量の減少が、アルジェリア、エジプト、ブラジル等で増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.0百万トン上方修正されており、国別にはEU、ウクライナの輸出量が上方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で積み増しされ、世界全体では前年度より17.0百万トン増加（14.7%）し、133.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も20.6%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正されており、国別には米国、オーストラリアが上方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>596.2</b>	<b>610.8</b>	<b>664.2</b>	<b>1.3</b>	<b>8.8</b>
EU-27	124.8	119.5	141.7	1.7	18.6
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	76.8	-	1.3
米国	49.3	56.2	67.0	0.8	19.1
ロシア	44.9	49.4	54.0	-	9.3
カナダ	25.3	20.1	24.5	-	22.2
オーストラリア	10.8	13.0	25.0	1.0	91.7
<b>消費量</b>	<b>616.4</b>	<b>621.5</b>	<b>647.2</b>	<b>1.3</b>	<b>4.1</b>
うち飼料用	105.8	96.7	117.7	1.9	21.7
EU-27	125.5	118.5	129.0	-	8.9
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.9	78.1	-	3.0
ロシア	36.4	38.2	39.0	-	2.1
米国	31.0	28.8	36.2	0.8	25.6
パキスタン	21.9	22.4	22.9	-	2.2
トルコ	16.7	16.5	16.6	-	0.6
<b>貿易量</b>	<b>110.7</b>	<b>113.8</b>	<b>120.5</b>	<b>2.0</b>	<b>5.9</b>
(輸出)					
米国	24.7	34.5	27.2	-	▲ 21.1
カナダ	19.6	16.5	16.5	-	0.0
オーストラリア	8.7	7.0	15.0	-	114.3
EU-27	13.9	11.0	16.0	1.0	45.5
ロシア	10.8	12.0	12.5	-	4.2
アルゼンチン	10.5	10.0	9.5	-	▲ 5.0
ウクライナ	3.4	1.1	7.5	0.5	581.8
(輸入)					
エジプト	7.3	7.5	7.8	-	4.0
ブラジル	7.8	7.0	7.3	-	4.3
アルジェリア	4.9	4.4	5.6	-	27.3
インドネシア	5.6	5.3	5.6	-	5.7
日本	5.7	5.5	5.5	-	0.0
EU-27	5.1	6.5	5.0	-	▲ 23.1
モロッコ	1.8	4.3	4.0	-	▲ 7.0
<b>期末在庫量</b>	<b>126.8</b>	<b>116.1</b>	<b>133.1</b>	<b>1.0</b>	<b>14.7</b>
中国	38.5	41.7	46.7	▲ 0.1	12.1
米国	12.4	8.3	14.6	1.4	75.8
EU-27	13.9	10.5	12.2	▲ 0.3	16.3
オーストラリア	4.4	4.3	8.2	1.1	89.2
インド	4.5	6.4	5.1	-	▲ 19.8
ロシア	2.4	2.6	6.1	-	135.7
カナダ	6.8	3.7	4.3	▲ 0.5	16.0
<b>期末在庫率</b>	<b>20.6%</b>	<b>18.7%</b>	<b>20.6%</b>	<b>0.1</b>	<b>1.9</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」

## (2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、冬小麦を中心とした作付け増加や良好な天候から前年度より10.8百万トン増加（19.1%）し、67.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より7.4百万トン増加（25.6%）し、36.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲21.1%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、6.3百万トン増加（75.8%）と大幅に積み増しされ、14.6百万トンとなり、期末在庫率も23.1%（9.9ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、良好な天候を反映した単収の改訂から生産量が0.8百万トン上方修正されており、飼料用需要も0.8百万トン、期末在庫量も1.4百万トン上方修正された。また、2007/08年度の輸出量は、月初めよりも輸出のペースが落ちたことから、0.5百万トン下方修正されている。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦の主要18州は収穫期を迎えているが、生育時に平均気温が低く推移したことから、収穫は過去5年の平均に比べ8ポイント（前年に比べ7ポイント）ほど進捗が遅れ、進捗率は77%となっている。

また、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。

春小麦の主要6州の生育進捗状況については、出穂率が95%となっており、過去5年の平均に比べ1ポイント早く進んでいる。

作柄については、優良が3%と前年度の同時期や最終に比べ大幅に低くなっているものの、普通が29%と前年度の同時期や最終に比べ高く、優良～普通までの合計では82%と前年度の最終の87%より5ポイントの低下にとどまっている。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）  
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.1%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.6%）

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	67.0	0.8	19.1
消費量	31.0	28.8	36.2	0.8	25.6
うち飼料用	3.3	0.6	7.8	0.8	1310.9
輸 出 量	24.7	34.5	27.2	-	▲ 21.1
輸 入 量	3.3	2.9	2.7	-	▲ 7.5
期末在庫量	12.4	8.3	14.6	1.4	75.8
期末在庫率	22.3%	13.1%	23.1%	1.9	9.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.90	0.13	10.9
単収(t/ha)	2.60	2.72	2.92	0.01	7.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」

### ○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（7月20日現在）

〔生育進捗状況（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）〕

冬小麦 出穂終了

収穫率 77%（平年差：▲8 p、前年差：▲7 p）

春小麦 発芽終了

出穂率 95%（平年差：+1 p、前年差：▲2 p）

〔作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	3	50	29	6	2
	前年度同時期	16	59	18	4	3
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、冬小麦の作柄については6月22日報告。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

## イ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、作付け増加などから前年度より4.4百万トン増加（2.2%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン増加（10.0%）し、7.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同じ16.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加（16.0%）し、4.3百万トンとなり、期末在庫率も18.0%（2.0ポイント増）とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度末に輸出が急激に増大したことから、2007/08年度の輸出量が0.8百万トン上方修正されており、これによって2008/09年度の期首在庫量が減少したため、2008/09年度の期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

カナダ南西部の穀物産地の大部分では、6月の気温は平年よりも低く、雨が少なかったため作物の生育が心配されたが、7月の気温はカナダの西部全体で平年をかなり上回っており、生産量の増大が見込まれる。一方、北部地域は降水量が少なく、生育状況に影響が出る可能性がある。今後も主要産地の天候に注視が必要である。

## ウ オーストラリア

### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復、前年度より12.0百万トン増加（91.7%）し、25.0百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大を記録している。

消費量は、ほぼ前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から8.0百万トン増加（114.3%）し、15.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.9百万トン増加（89.2%）し、8.2百万トンとなり、期末在庫率も38.8%（5.9ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の増加と収穫面積の増加を受けて、生産量が1.0百万トン上方修正された。これに伴い、期末在庫量も1.1百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアの小麦の生育進捗状況は、4月から6月上旬にかけての降水量が十分であったものの、6月末から降水量が減少し、クイーンズランド州およびニューサウスウェールズ州などの一部地域では、水分が不足し、冬小麦の発育に影響が出始めている。今後も主要産地の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位（2007年数量ベース21.5%）  
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.7%）  
輸出量シェア 2位（2008/09年度13.7%）

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	24.5 (24.2)	-	22.2
消費量	8.7	7.0	7.7 (7.8)	-	10.0
うち飼料用	4.3	3.0	3.0 (3.4)	0.5	0.0
輸出量	19.6	16.5	16.5 (16.2)	-	0.0
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 14.3
期末在庫量	6.8	3.7	4.3 (4.3)	▲ 0.5	16.0
期末在庫率	24.1%	16.0%	18.0% (17.9%)	▲ 1.9	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.00 (10.05)	-	15.7
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.45 (2.41)	-	5.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (July 2, 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2007年数量ベース18.0%）  
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 3.7%）  
輸出量シェア 4位（2008/09年度12.5%）

表-4 オーストラリアの小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.0	25.0 (23.7)	1.0	91.7
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0
輸出量	8.7	7.0	15.0 (16.3)	-	114.3
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.4	4.3	8.2 (…)	1.1	89.2
期末在庫率	27.3%	32.9%	38.8% (…)	5.4	5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	14.00 (13.97)	0.50	13.4
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.79 (1.70)	0.01	68.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (June 2008)」

## エ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より22.2百万トン増加(18.6%)し、141.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より10.5百万トン増加(8.9%)し、129.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから5.0百万トン増加(45.5%)し、16.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.7百万トン増加(16.3%)し、12.2百万トンとなり、期末在庫率も8.4%(0.3ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫高の増大と地中海沿岸部での需要の高まりを受け、輸出量が1.0百万トン上方修正された。また、生産量が1.7百万トン上方修正された。期末在庫量は0.3百万トン下方修正された。さらに、2007/08年度の輸出量は、北アフリカの需要が高まった影響を受け、1.5百万トン上方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ドイツ東部とポーランド西部で春から続いている乾燥状況を除き、EUは総じて良好な天候に恵まれ豊富な土壌水分が確保されている。一部雨により収穫が遅れている地域もあるが、おおむね順調に推移している。

## オ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.0百万トン増加(12.1%)し、46.7百万トンとなり、期末在庫率も42.9%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸出量が上方修正されたことにより、2008/09年度の期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

収穫の最盛期である6月に好天が続いたため、収穫は順調に進んでいる。河北地域の一部では、長雨の影響で小麦にカビの被害が出ているものの、総じて質・量ともに平年を上回る見込みである。

### 【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.3%)  
輸出量シェア3位(2008/09年度13.3%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	124.8	119.5	141.7 (139.8)	1.7	18.6	
消費量	125.5	118.5	129.0 (126.1)	-	8.9	
うち飼料用	60.2	53.2	63.0 (54.9)	-	18.5	
輸出量	13.9	11.0	16.0 (15.1)	1.0	45.5	
輸入量	5.1	6.5	5.0 (5.0)	-	▲ 23.1	
期末在庫量	13.9	10.5	12.2 (14.0)	▲ 0.3	16.3	
期末在庫率	10.0%	8.1%	8.4% (9.9%)	▲ 0.3	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.44	24.67	26.59 (…)	-	7.8	
単収(t/ha)	5.11	4.84	5.33 (…)	0.07	10.1	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
IGC「Grain Market Report (26 June 2008)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度17.2%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.0)	-	3.8	
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9	
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0	
輸出量	2.8	2.8	2.0 (3.0)	-	▲ 28.6	
輸入量	0.4	0.2	0.0 (0.1)	-	▲ 85.0	
期末在庫量	38.5	41.7	46.7 (…)	▲ 0.1	12.1	
期末在庫率	36.7%	39.1%	42.9% (…)	▲ 0.1	3.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3	
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
IGC「Grain Market Report (26 June 2008)」

## カ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、前年度より1.0百万トン増加（1.3%）し、76.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より2.2百万トン増加（3.0%）し、78.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.3百万トン減少（▲19.8%）し、5.1百万トンとなり、期末在庫率も6.6%（1.9ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

収穫は、4月～5月に順調に終了した。

## キ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より4.6百万トン増加（9.3%）し、54.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.8百万トン増加（2.1%）し、39.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから0.5百万トン増加（4.2%）し、12.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.5百万トン増加（135.7%）し、6.1百万トンとなり、期末在庫率も11.8%（6.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

6月上旬の気温が低かったものの、冬小麦の生育進捗状況は、総じて良好である。春小麦の作付けは6月に終了した。今後の天候に作柄が左右されることから、引き続き主要産地の天候に注視が必要である。

### 【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

## （世界の生産量シェア3位（2007/08年度11.6%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	76.8 (78.0)	-	1.3
消費量	73.4	75.9	78.1 (…)	-	3.0
うち飼料用	0.3	0.2	0.2 (…)	-	0.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 入 量	6.7	2.0	0.1 (0.5)	-	▲ 95.0
期末在庫量	4.5	6.4	5.1 (…)	-	▲ 19.8
期末在庫率	6.1%	8.4%	6.6% (…)	-	▲ 1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	27.70 (…)	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.77 (…)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
IGC 「Grain Market Report (26 June 2008)」

## （世界の生産量シェア5位（2008/09年度 8.1%） 輸出量シェア5位（2008/09年度10.4%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	54.0 (51.5)	-	9.3
消費量	36.4	38.2	39.0 (…)	-	2.1
うち飼料用	14.1	15.4	16.0 (…)	-	3.9
輸 出 量	10.8	12.0	12.5 (12.5)	-	4.2
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.6)	-	0.0
期末在庫量	2.4	2.6	6.1 (…)	-	135.7
期末在庫率	5.0%	5.1%	11.8% (…)	-	6.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	25.50 (…)	-	4.1
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.12 (…)	-	5.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、  
「World Agricultural Production (July 2008)」、  
IGC 「Grain Market Report (26 June 2008)」

## ク アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より1.5百万トン減少（▲9.4%）し、14.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから0.5百万トン減少（▲5.0%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲53.4%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も2.7%（3.0ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

7月18日現在、気温が低く、乾燥した天候が続いており、作付け進捗率は74.3%となっている。7月に入り降雨があったため、前週から12.6ポイント進捗したものの、昨年と同時期と比較し8.7ポイント遅れている。

### 【貿易情報】

2008年4月から輸出登録手続きの再開を発表したが、輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等がストライキを実施。その後、同制度の関連法案は廃案となった。

## ケ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より7.1百万トン増加（51.1%）し、21.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（2.3%）し、13.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから6.4百万トン増加（581.8%）し、7.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（23.8%）し2.1百万トンと積み増しされるものの、期末在庫率は輸出量の拡大に伴い10.0%（2.0ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.2百万トン上方修正された。また、北アフリカや中東地域での需要の高まりを受け、輸出量が0.5百万トン上方修正された。その結果、期末在庫量が0.3百万トン、期末在庫率が1.6ポイント下方修正された。また、2007/08年度の実産量は、輸出制限が解除された後に契約上の問題によって輸出が遅れたことにより、0.6百万トン下方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の生育は、良好に進んでいる。現在、収穫時期を迎えていることから、主要産地の天候に注視が必要である。

### 【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

## （世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.9%））

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			対前年度 増減率(%)
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更		
生産量	15.2	16.0	14.5 (14.5)	-		▲ 9.4
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-		0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-		0.0
輸出量	10.5	10.0	9.5 (9.9)	-		▲ 5.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-		0.0
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.8)	-		▲ 53.4
期末在庫率	2.0%	5.7%	2.7% (5.2%)	-		▲ 3.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.29	5.60	5.10 (…)	-		▲ 8.9
単収(t/ha)	2.88	2.86	2.84 (…)	-		▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、

「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、

「World Agricultural Production (July 2008)」

IGC「Grain Market Report (26 June 2008)」

## （世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 6.2%））

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			対前年度 増減率(%)
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更		
生産量	14.0	13.9	21.0 (20.0)	-		51.1
消費量	11.7	12.9	13.2 (…)	0.2		2.3
うち飼料用	2.1	3.1	3.2 (…)	-		3.2
輸出量	3.4	1.1	7.5 (6.0)	0.5		581.8
輸入量	0.1	0.4	0.1 (0.1)	-		▲ 71.4
期末在庫量	1.4	1.7	2.1 (0.0)	▲ 0.3		23.8
期末在庫率	9.5%	12.0%	10.0% (…)	▲ 1.6		▲ 2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	6.80 (…)	-		14.3
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.09 (…)	-		32.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (July 2008)」、

「Grain: World Markets and Trade (July 2008)」、

「World Agricultural Production (July 2008)」

IGC「Grain Market Report (26 June 2008)」